

平成18年度事業報告書

自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日

・ 展覧会の開催

1. 第34回「日本の書展」巡回展

現代書壇巨匠と現代書壇代表の101点については、東京展、中部展、関西展、九州展の直轄4展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年間をかけて、地方9カ所を巡回した。

第34回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地		地元主催新聞社	会場	会期	地元作品 点数
1	茨城	水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	18.4.22～4.26	310
2	鳥取	米子市	山陰中央新報社	米子市美術館	18.6.22～6.26	236
3	富山	富山市	北日本新聞社	富山県民会館美術館	18.7.14～7.17	233
4	山梨	身延町	山梨日日新聞社	なかとみ現代工芸美術館	18.7.21～8.27	28
5	栃木	宇都宮市	下野新聞社	福田屋ショールーム宇都宮店	18.8.30～9.4	220
6	広島	広島市	中国新聞社	福屋広島駅前店	18.10.5～10.10	713
7	岡山	岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店	18.10.24～10.29	572
8	奈良	奈良市	奈良新聞社	奈良市美術館	19.1.31～2.4	276
9	長野	長野市	信濃毎日新聞社	長野県信濃美術館	19.3.9～3.12	212

2. 第31回「日本の女流書展」

(1) 東京展

会期 平成18年8月1日(火)～8月6日(日)

会場 東京銀座画廊美術館(銀座貿易ビル7階および8階)

主催 (財)全国書美術振興会

後援 文化庁

第31回「日本の女流書展」東京展の出品点数は、巡回作品105点、東京展作品451点、合計556点だった。

開催2日目の8月2日(水)には、ホテルオークラ東京「平安の間」において開催披露レセプションを行い、来賓・出品者・招待者を合わせて約500名が出席した。

レセプションでは、主催者を代表して犬養康彦会長、続いて津金孝邦理事長からそれぞれ挨拶があった後、来賓を代表して小野清子参議院議員ならびに竹下典行文化庁長官官房政策課長、出品者を代表して当会参事の小山やす子氏からそれぞれ祝辞と挨拶があり、文化功労者・当会名誉顧問の成瀬映山氏の発声により乾杯を行い、祝宴に入った。

会期中の来場者数は約6600名を超え、終始盛況だった。

(2) 中部展

会期 平成18年8月29日(火)～9月3日(日)

会場 名古屋市博物館(3階ギャラリー)

主催 (財)全国書美術振興会 中日新聞社

後援 文化庁 愛知県 岐阜県 三重県 名古屋市 各県市教育委員会 東海テレビ放送

協賛 (社)中部日本書道会

第31回「日本の女流書展」中部展の出品点数は、巡回作品105点、東京展出品中部在住者作品80点、中部展作品755点、合計940点だった。

開催初日の8月29日(火)には、ウェスティンナゴヤキャッスル「青雲の間」において開催披露レセプションを行い、来賓・出品者・招待者を合わせて約400名が出席した。レセプションでは、主催者を代表して津金孝邦理事長、続いて小山勇中日新聞社取締役顧問からそれぞれ挨拶があった後、来賓を代表して当会顧問の黒野清宇氏、出品者を代表して当会評議員・「日本の女流書展」中部展実行委員の後藤秀園氏からそれぞれ祝辞と挨拶があり、佐藤卓男東海テレビ放送株式会社専務取締役の発声により乾杯を行い、祝宴に入った。

会期中の来場者数は約2700名だった。

「日本の女流書展」は次回から「日本の書展」に合流し、当会の展覧会事業は「日本の書展」に一本化されるため、「日本の女流書展」の名称を使つての展覧会は、東京展、中部展共、今回が最後となる。

・出版物の刊行

1. 図録

(1) 第31回「日本の女流書展」東京展 2,400冊

(2) 第31回「日本の女流書展」中部展 2,360冊

・書美術功労者の顕彰

日本芸術院賞を受賞された劉蒼居氏、文化功労者を受けられた高木聖鶴氏、日本芸術院会員になられた古谷蒼韻氏の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

以 上